

都市経営会議・18の提言

【新しい総合計画の策定に向けて】

平成22年2月

千歳市都市経営会議

目 次

1	この提言書について	1
2	提言書の内容	2
	提言 1 : 身近にある自然を再認識し、その環境を保全しよう.....	2
	提言 2 : 温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組もう.....	3
	提言 3 : 環境美化への意識をレベルアップし、美しいまちにしよう.....	4
	提言 4 : ごみ分別の徹底とともに、ごみを散乱させない工夫をしよう.....	5
	提言 5 : 防犯意識を高め、地域ぐるみで犯罪が起きにくい環境にしよう.....	6
	提言 6 : 予想される災害、とるべき対策などをもっと知ろう.....	7
	提言 7 : みんなで公共交通を利用し、利便性を高めよう.....	8
	提言 8 : 土地を有効に利用し、快適に暮らせる住環境をつくろう.....	9
	提言 9 : 農業への関心を高め、千歳の農業を応援しよう.....	10
	提言 10 : 地元で買い物ができる場を、みんなで大切にしよう.....	11
	提言 11 : 千歳の魅力をPRし、企業を誘致し、根づかせよう.....	12
	提言 12 : 市民一人ひとりが「千歳」をセールスしよう.....	13
	提言 13 : 千歳を訪れた人たちが、立ち寄りたくなるまちにしよう.....	14
	提言 14 : 若いまちとして、千歳っ子を産み・育てる環境を高めよう.....	15
	提言 15 : 支え合い、見守り合いが自然に見られる地域にしよう.....	16
	提言 16 : 社会全体で、子どもの好奇心や郷土愛を育てよう.....	17
	提言 17 : 生涯学習への参加の輪を広げよう	18
	提言 18 : 今ある施設が活動や発表の場にもっと使われるようにしよう.....	19
3	資料編	20

1 この提言書について

この提言書は、千歳市の新しい総合計画を策定するにあたり、市長より“『(仮称)千歳市第6期総合計画』これからのまちづくりの課題と目標”という諮問テーマを受け、都市経営会議において、今後の千歳市のまちづくりの課題や取り組む目標などを討議し、委員の総意として討議結果をまとめたものです。

(1) 討議の進め方について

討議の進め方は、委員による主体的な運営を基本としました。

その中で、まず、千歳市全体について、各委員が一市民として目にする現状や、改善が必要だと感じる課題について意見を出し合いました。

次に、意見があった内容について、幾つかの項目に整理し、それぞれ提言を設定しました。

そして、提言ごとに課題を整理し、提言内容を具現化するにあたって取り組むべき内容について、更なる討議を重ねました。

オリエンテーションの他、10回に及ぶ会議を重ねた結果、最終的に『18の提言』としてまとめています。

(2) 提言書の見方

提言ごとに、その提言が出される背景となった「現状と課題」、提言についての「基本的な考え方」、提言に沿って取り組む内容を例示した「期待される取組」の3つの区切りでまとめています。

提言の文末は「～しよう」という表現にしています。これは、市への呼びかけにとどまらず、個々の市民や市民団体、企業などへの呼びかけでもあるためです。

「期待される取組」についても、市（行政）だけに期待するのではなく、市民や企業との協働を基本に進めていくべき内容も掲載しています。

(3) 新しい総合計画に向けて

提言の内容によっては、実施や実現が難しい又は直ぐには取り組めない内容があるかもしれませんが、時間がかかっても、よりよい千歳になってもらうためにはどうあるべきかを前提に、私たちが討議した結果を掲載しています。

また、すでに実施されている又は取組を始めている内容もあるかもしれませんが、それらについては、さらなる改善や工夫を求めて記載しています。

新しい総合計画の策定作業において、参考にさせていただくことを期待しています。

2 提言書の内容

提言1：身近にある自然を再認識し、その環境を保全しよう

<現状と課題>

- 千歳市は、支笏湖や青葉公園、グリーンベルトなど、豊かな自然環境から街なかの緑まで、さまざまな自然に恵まれています。その良さを十分に理解している市民ばかりではありません。
- 身近な環境整備は町内単位で行われますが、地域によって取組に差が見られます。
- 千歳市でも特定外来生物^{※1}による被害が見られます。今後は、草（オオハンゴンソウ）、ハチ（セイヨウオオマルハナバチ^{※2}）などによる支笏湖周辺の高山植物などへの被害の拡大も懸念されますが、特定外来生物に関する情報が十分には市民に周知されていない状況です。
- 特定外来生物以外にも、ブラウントラウト、ミンクなど、在来種以外の生物が千歳市内でも増えています。

基本的な 考え方

千歳市にある「豊かな自然環境」は千歳の大きな魅力です。
千歳はいかに自然に恵まれているかをまず市民が再認識し、自然環境の保全に市民協働で取り組んでいくべきです。

<期待される取組>

- ★市民が千歳の自然の豊かさを再認識できるよう、千歳の自然をPRする。（広報紙で紹介する機会を増やす、自然観察会を増やす、市民を対象に千歳市の自然をテーマとする写真・絵画等のコンテストや展示会を開催するなど。）
- ★外来生物の存在や問題点、駆除方法などを市民に周知する。
- ★市民でも駆除が可能な外来生物については、町内会や各種団体を巻き込んで、清掃・除草などの地域活動やイベント開催時に駆除を行う。
- ★環境保全について、より多くの市民が関心を持ち参加するよう、環境保全活動を行っている市民団体や町内会等の活動の情報を収集し、周知する。

※1：特定外来生物とは、外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定されます。特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます。（環境省ホームページより）

※2：北海道では、エゾオオマルハナバチなど11種類の在来のマルハナバチが生息し、野生植物の受粉に欠かせない存在となっていますが、セイヨウオオマルハナバチが繁殖すると、餌や巣の競合により在来種を駆逐したり、受粉を依存する植物を減少させる心配があることがわかりました。（写真と説明：北海道ホームページより）

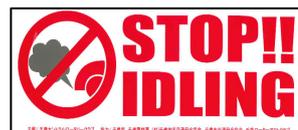


セイヨウオオマルハナバチ

提言2: 温室効果ガス※¹の排出削減に積極的に取り組もう

<現状と課題>

- 市内大型店舗のレジ袋有料化に伴い、マイバックを持参する市民は増えていますが、全体にはまだ浸透していません。
- 新エネルギーとして太陽光エネルギーの利用を国でも進めています、設備投資がかかるため、あまり普及していません。
- アイドリングストップについては、バスや一部のトラックで定着していますが、自家用車をはじめその他の車両では、あまり普及していません。
- 資源回収や節電、温度調節など身近なエコ活動については、個々の家庭や地域、企業に対して、呼びかけを継続していくことが必要です。



アイドリングストップを促すステッカー（千歳セントラルロータリークラブ作成）

基本的な考え方

環境負荷軽減への取組は、日常生活と関わる部分も多く、市民一人ひとりの行動が、やがて大きな成果となります。

地球温暖化への問題意識を市全体で高め、温室効果ガスの排出削減につながる行為が普及するよう市民協働で行動をおこしていくべきです。

<期待される取組>

- ★家庭で取り組めるエコ活動を普及する。（資源回収、節電、温度調節、マイバック、4R運動※²、二酸化炭素吸収能力の高い木や花※³の植栽など。）
- ★太陽光エネルギーの普及を促進する。（ソーラーシステムの設置補助に関する情報を広めるなど。）
- ★アイドリングストップが市全体に普及するよう、市・個人・企業で積極的に取り組む。（意識が高まり取組が活発になってきたら条例をつくることも検討する。）
- ★温室効果ガスの排出削減に向けた取組について、市民や各種団体、企業などがお互いに意識し合うことで促進する。（チャレンジ 25 キャンペーン※⁴への参加を促進する、環境フェアで町内会・団体・企業などがお互いの活動を紹介し合うなど。）

※1: 太陽からの熱を地球に封じ、地表を暖める働きがあるガスのことです。「地球温暖化対策の推進に関する法律」において、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、代替フロン等の6種類のガスが温室効果ガスとして定められています。

※2: ごみを減らす「リデュース Reduce」、限られた資源を繰り返し使う「リユース Reuse」、資源を再利用する「リサイクル Recycle」、ごみとなるものを使うのを断る「リフューズ Refuse」を進めようという運動を、4つの頭文字（R）から、「4R運動」と言います。

※3: 道立林業試験場では、炭素の固定能力にすぐれた「クリーンラーチ」を林産試験場と共同で開発しました。花では、インパチェンスを改良した草花『サンパチェンス』は、二酸化窒素、ホルムアルデヒド、二酸化炭素を吸収する能力が高い花です。（写真と説明：北海道HP、サカタのタネHPより）

※4: オフィスや家庭などで実践できる二酸化炭素削減に向けた具体的な行動を提案し、その行動の実践を広く国民によびかけています。



サンパチェンス（上）と
クリーンラーチ（下）

提言3：環境美化への意識をレベルアップし、美しいまちにしよう

<現状と課題>

- 林道の沿線や河川敷などに不法投棄が見られます。ポイ捨てや家電、タイヤ等の放置も見られ、一般人だけでなく、業者が意図的に捨てたものと思われる。
- 市内で行われているマラソンイベントでは、林道がコースに利用されることが多く、その周辺には不法投棄が目立ち、千歳市のイメージダウンになります。
- 道路や歩道の雑草や街路樹が伸び放題で、見苦しかったり、視界が狭くなっているところがあります。
- 除草については、地域で取り組んでいる場所とそうでない場所では差が大きくなっています。
- 北海道屋外広告物条例^{※1}により大型看板の規制は行われていますが、小型看板（政治活動看板を含む）については、景観を損ねているところがあります。

基本的な 考え方

不法投棄は犯罪であることを認識し、市民のマナー違反が原因のものは、意識を改めることが必要です。地域の環境美化についても、除草や看板の設置改善など、市民で協力してできることは積極的に取り組んでいくべきです。

<期待される取組>

- ★市と関係機関、企業（運輸・配送関係）、市民（町内会、各種団体等）などの連携を強化し、不法投棄の解消に取り組む。（不法投棄の調査を行う、解消に向けた方策を検討・実施するなど。）
- ★不法投棄が特に目立つ場所については、多くの市民に協力を求め、参加型の回収活動を行う。（特にマラソンコース周辺など。）
- ★道路の街路樹については、町内会の協力が得られる地域では、枝打ちや下草の除去などの管理の協力体制をつくり、効果的に行う。
- ★市民や市内の業者が設置している小型看板については、景観への配慮を呼びかけ、自主的な改善を促す。（公共性が高く小型看板が多い場所については、小型看板の規制について検討する。）

※1：屋外広告物法により北海道で定めた条例です。良好な景観の形成や風致の維持、公衆に対する危害の防止を図るため、特定の地域で屋外に広告物を表示することを禁止したり、許可を受けなければ表示することができないとしているほか、広告物の表示を禁止する物件を定めるなど必要な規制を行っています。平成17年には「屋外広告業の登録制度の導入」や「規制地域や禁止物件の追加」、「違反事実の公表制度の創設」など、広告景観をより一層向上させるため条例を改正しました。（北海道ホームページより）

提言4:ごみ分別の徹底とともに、ごみを散乱させない工夫をしよう

<現状と課題>

- 市民によるごみの分別は、全体的には定着しつつありますが、分別の区分が異なる他の自治体からの転入者が当初とまどったり、町内会への未加入世帯が増えていることにより、全市的には徹底されていない状況もあります。
- 燃やせないごみと4種資源物については、分別の区分がわかりづらいという意見も多く、その結果、混在して出されるケースも見られます。
- ごみ集積所では、カラスによってごみが散乱している状況が見られます。一方、ボックスや網を利用して、カラスの被害をなくす工夫をしている町内会も見られます。

基本的な 考え方

まず、日常的にごみを排出する市民が、きちんとごみの分別を行うことが基本です。加えて、ごみを出さない、散乱させないという工夫も、町内会などで知恵を出し合い、みんなで協力すべきです。

<期待される取組>

- ★新たな転入者や、分別の区分がわかりにくい人たちに、ごみ出しのルールや分別方法についての情報を提供し、協力を求めていく。(ごみ集積所や集合住宅の掲示板などに分別の区分をわかりやすく掲示する、転入時の手続き時に詳しく説明するなど。)
- ★カラス対策に有効な金網製のボックス設置などを進める。(市の補助制度などを利用して町内会で進める。)
- ★ごみ集積所のカラス対策として有効的な手法については、全戸に行き渡るように紹介する。(生ごみを新聞紙でくるむ、とうがらしスプレーをまくなど。)

提言5:防犯意識を高め、地域ぐるみで犯罪が起きにくい環境にしよう

<現状と課題>

- 千歳っ子見守り隊は、防犯の面からも、大きな存在です。また、地域によっては、交番と連携して不審者情報を回覧版で周知しているところもあります。地域でのコミュニケーションが希薄化するなか、このような地域ぐるみの取組を市全体に広げていくことが必要です。
- 小中学生を狙った不審者情報は携帯やFAXで情報共有が迅速に行われるため、不審者も減っています。しかし、高校生や女性を狙った不審者情報はそのようなシステムがなく、口コミでしか伝わらないため、迅速さや正確さに欠けます。
- こども110番の家の多くは、地域の住民(宅)に協力してもらっていますが、日中留守の場合もあるので、より多くの方に協力を得ることが必要です。
- 駅の駐輪場で自転車の盗難が目立ちますが、その要因としては、未施錠であるほか、乱雑に止められていることも考えられます。



千歳っ子見守り隊の活動



子ども110番の家ステッカー

基本的な 考え方

環境整備とともに、犯罪を防ごう、無くそうという、市民一人ひとりの意識と行動で、犯罪が起きにくい環境を保つことが大切です。

防犯に関する情報を共有し活用するとともに、現在、防犯活動で活躍している人達や取組にスポットライトを当て、市全体に防犯意識や参加の輪が広がっていくようにする必要があります。

<期待される取組>

- ★防犯意識を市全体で高め、防犯活動の参加者を増やしていくため、防犯に関する地域での活動を推進・奨励する。千歳っ子見守り隊の活躍やこども110番の家の取組など、防犯活動を積極的に行っている人達をもっと市民に紹介する。
- ★地域と警察(交番)、青少年健全育成関係団体、企業などとの連携を強化し、地域ぐるみで犯罪を防ぐ環境や体制をつくる。(近隣とのコミュニケーション・声かけを大事にする、防犯灯の設置について協議する、防犯につながる情報を共有するなど。)
- ★女性(高校生含む)向けの不審者情報を携帯メールで提供するサービスを行う。
- ★学校と地域の連携を深め、こども110番の家を増やすとともに、子どもに周知する。(効果的な募集ができるよう工夫する、日中留守が少ない事業所にもっと参加を呼びかける、一斉下校時にこども110番の家を確認する、ステッカーを定期的に更新するなど。)
- ★駐輪場での施錠、駐輪マナーの向上を啓発し、防犯の環境づくりを進める。

提言6：予想される災害、とるべき対策などをもっと知ろう

<現状と課題>

- 災害への備えや対応に関する意識が求められていますが、防災訓練などへの参加は防災関係者や町内会役員、防災担当者などが中心となる場合が多く、参加状況は高くありません。近年、震災や噴火など大規模災害がないこともあり、防災意識が高まっていないことが原因であると思われます。
- 民生委員や町内会では、災害時に避難の手伝いや安否確認が必要な方を把握するように努めていますが、個人情報保護の観点から、十分に情報を把握できていない部分もあります。

基本的な考え方

大きな災害がないことは良いことですが、それに甘えず、災害に対する知識や備えの重要性を市民に継続的に啓発していくことが必要です。

一方、市民は受け身ではなく、積極的に個々の意識を高め、家庭や地域で対策を立てるべきです。

また、日頃からの備えとして、起こりうる災害を想定し、とるべき行動について、定期的に地域で確認したり、訓練しておくべきです。

<期待される取組>

- ★災害対策に取り組んでいる組織や地域を、もっと市民に紹介する。
- ★関心や危機感を喚起する防災マップ（ハザードマップ）を定期的に作成し、災害時の避難場所を市民に周知徹底する。（被害がイメージできるような記載・表現なども行う。）
- ★市民が防災について学べる場として、新しくできる防災学習交流センターの活用を学校や町内会、老人クラブ等に促す。（親子で気軽に利用できる場にする、防災時に役立つ知識を教える企画を行う、交通の利便性を確保するなど。）
- ★個人情報を保護しながら、災害発生時に避難の手伝いや安否確認が必要な高齢者、障がい者などの情報を把握する。
- ★携帯端末を利用した災害情報提供を充実する。（北海道で行っている北海道防災対策支援システム^{※1}を紹介する、将来的にはより地域に密着した災害情報が提供できるシステムを整備するなど。）

※1：北海道の災害関連情報（地震、噴火、暴風雪、大雨、洪水、暴風、大雪、波浪、高潮、津波など）を携帯電話にメール配信するシステムです。



提言7：みんなで公共交通を利用し、利便性を高めよう

<現状と課題>

- 路線バスについては、千歳駅のターミナル化に伴う路線の変更、早い時間帯の終バス運行、公共施設へのアクセスなどに不便を感じている人もいます。また、近年開発された地域では、バスの運行ルートがないところもあります。不便なので利用しない、という市民が増えると、便数が減り、更に利用者が減るという悪循環になっています。
- 千歳駅前のバス乗り場は安全確保のため動線が制限されており、慣れていないと行き方がわかりづらい状況です。また、以前より遠回りをしなければ乗り場や駅まで行けないという利用者の声を聞きます。
- 駅周辺では案内標識が不足しており、乗り場や駅、その他施設までの経路がわかりづらい箇所があります。
- 千歳駅西口は再開発により施設等が整備されましたが、にぎわいを感じる部分がありません。多くの人を利用するターミナルエリアとして、利用者が楽しめるような雰囲気づくりを進めていくことが必要です。

基本的な 考え方

公共交通の利便性は、利用が増えることにより維持・向上されるため、なるべく多くの人を利用しやすい状況をつくり、積極的な利用を促すべきです。

また、多様な人が利用する交通ターミナルである千歳駅周辺は、利用者の目線で表示した案内・誘導を行い、利便性を高めていくべきです。

<期待される取組>

- ★市民みんなでバスを積極的に利用する意識を高める。(二酸化炭素排出削減の取組と連動させる、地域でバス停の環境改善を進めるなど。)
- ★適宜行われるビーバスの運行見直しに際し、市民が積極的に参画する。(各種調査、パブリックコメントなど。)
- ★地域が主体となり、乗合タクシーやデマンドバスなど、新たな公共交通の確保について検討する。
- ★千歳駅前バス乗り場周辺の利便性の向上を検討する。(乗車や降車ができる場所を増やす、横断歩道を設置するなど。)
- ★千歳駅の構内や周辺の案内板、誘導標識の表示をわかりやすくする。(外国語表記を増やす、案内板等を増やすほか表示方法や設置位置を改善するなど。)
- ★ターミナルとしてのにぎわいを創り出すため、千歳駅西口周辺の施設利用に関わる規制を緩和する。(千歳駅とペウレの連絡通路を展示やイベント又は広告スペースとして利用するなど。)
- ★公共交通を最もよく使う高齢者の利用が高まるような取組を実施する。(公共交通機関の共通パスを検討するなど。)

提言8：土地を有効に利用し、快適に暮らせる住環境をつくろう

<現状と課題>

- 早い時期に開発された郊外の分譲住宅地などでは、高齢化が進み、空き家も増えていきます。土地つき中古住宅の情報は市内でも多く見られますが、周辺地域と比べて、千歳市の賃貸物件の家賃は高いという声が聞かれます。家賃の高さをカバーする魅力の発信が必要です。
- 千歳市の恵まれた自然を気に入って、郊外に住んでいる人がいる一方で、交通が便利で除雪の心配が少ない街なかへの居住を求める人もいます。特に、除雪や交通の便を考え、街なかへの居住を希望する高齢者も増えていきます。このようなことから、国でも、歩いて暮らせる生活圏をつくるための「コンパクトなまちづくり」を提唱しています。

基本的な 考え方

市外からの移住など新たな居住者を確保するため、千歳市の優れた住環境などの魅力を積極的に情報発信していくべきです。

また、高齢になっても暮らしやすい場づくりの一環として、街なかの住宅の整備や公共施設の再配置など、長期的な視点で「コンパクトなまちづくり」を進めていくべきです。

<期待される取組>

- ★千歳市への移住・定住を促すような地域の魅力を積極的に情報発信する。(市のホームページなどを活用するなど。)
- ★市民の理解を得ながら「コンパクトなまちづくり」を計画的に進める。(街なかの空き家等の状況について調査する、街なかへの居住を誘導するような方策を検討するなど。)
- ★郊外や戸建てに住んでいる市民が、街なかに住宅を確保しやすいようなしくみをつくる。(マイホーム借り上げ制度^{※1}の利用を促進するなど。)
- ★長期的な視点で、公共施設の集約を進める。(集約の結果、公共施設から遠ざかる利用者についても配慮する。)

※1：有限責任中間法人「移住・住み替え支援機構」が、50歳以上の方が所有する住宅を借上げ、主に子育て期の世帯に転貸して、家賃収入を所有者に支払う制度です。郊外の家を売却せずに家賃収入でまちなかに住むことが可能になります。

提言9：農業への関心を高め、千歳の農業を応援しよう

<現状と課題>

- 修学旅行生などを対象にした農業体験を企画したり、グリーンツーリズムマップを配るなど、農業への関心を高める取組が行われていますが、農家の高齢化が進み、担い手や農繁期の労働力を求めている農家が増えています。
- 郊外では、農家による農産物の直売も行われるようになり、以前に比べると千歳産の野菜も買えるようになってきていますが、市内のスーパーなどでは、千歳の農産物をあまり目にしません。(千歳産という表示がされていません。)
- 千歳の農産物は、出荷量や生産量が道内有数のものもあり、多くの農産物が全国に出回っていますが、千歳産として取り扱われていない場合も少なくありません。

基本的な 考え方

農業は市民にとって、食に関わる産業です。直接農業に携わっているか否かに関わらず、後継者の確保や千歳の農産物を、市全体で応援していくべきです。

せっかく千歳で育った農産物が全国に出荷されているにもかかわらず、千歳の名前が表に出ていないのはもったいないことです。千歳産であることをもっとアピールして、市の知名度やイメージを高めるべきです。

<期待される取組>

- ★後継者のいない農家のニーズ把握と新規参入希望者への情報提供を充実するとともに、両者のマッチングを積極的に支援する。
- ★農繁期に、市民による農作業支援の促進（労働力のマッチング）を行う。
- ★千歳の農産物の購買や農業への関心、ひいては就農にもつながるよう、千歳の農業を広く紹介する機会を増やす。(市内でできる農業体験・就農体験・グリーンツーリズムなどをPRする、千歳市が優良な農業地域で質の高い農産物を生産していることを市民と市外にもっとアピールするなど。)
- ★千歳の農産物の地産地消の拡大を促進する。(市民・小売業者・生産者とともに推進体制をつくる、道の駅での農産物販売を拡充する、地産地消を掲げた定例的なイベントを拡大するなど。)
- ★千歳の農産物を市外の人にも知ってもらう取組を進める。(贈答には地元農産品を使うキャンペーンを行う、千歳の農産物がPRできる千歳オリジナルの箱をつくるなど。)

提言10:地元で買い物ができる場を、みんなで大切にしよう

<現状と課題>

- 中心商業地域では空き店舗が増加し、また、飲食店が中心となりつつあります。子どもや若者向けの店舗が少なく、特に若い世代の客足が遠のいています。
- 買い物のマイカー利用が増え、商業機能が郊外化しています。その一方で、老後の買い物を心配している人も増えています。
- 最近のポイント制度も減り、地元商店街で買うメリットが低下しています。
- 地元で買おう、という気持ちを持っている（行動につなげている）市民は少なくなっています。

基本的な 考え方

「地元の商店を大事にしよう」という消費者（市民）の意識と「地元の客を大事にしよう」という商店の意識の、双方が大切です。これらの意識がもっと高まるよう、ソフト面からも商店街を活性化していくことが必要です。

また、今後さらに高齢化が進むことが予想されており、マイカーを持たない高齢者の買い物の利便性を確保することに努めるべきです。

<期待される取組>

- ★市民に商店街の持つ機能や存在の大切さをPRし、地元での購買を心がけるよう促す。（市内買い物推進運動や地産地消を推進するなど。）
- ★市民に利用される商業活動が展開されるよう促す。（商業関係団体と市民が意見交換できる機会を設ける、全市統一的なポイント制度の導入や相互のポイントを交換できるシステム導入を検討するなど。）
- ★中心市街地を活性化する取組を促進する。（地元農産品等の朝市の企画を増やす、イメージを明るくするイルミネーションを装飾する、タウンプラザ前のバス停をタウンプラザ施設と連動させて快適性を高めるなど。）
- ★商店街として、高齢化などに対応する移動式、配達・出前方式の商業活動を促進する。



市内買い物推進運動の標語
(千歳商工会議所ホームページより)

提言11：千歳の魅力をPRし、企業を誘致し、根づかせよう

<現状と課題>

- 千歳にはいろいろな企業誘致の実績があります。交通の利便性や労働力、豊かな水などに加え、恵まれた自然の中で生活できることや冷涼な気候なども、企業にとっての魅力となっています。
- 千歳で生活する学生の中でも就職先を北海道に求める人は多いですが、近年は、雇用条件が厳しかったり、受け入れる人数が少なかったりするため、やむを得ず道外に就職する状況にあります。
- 企業誘致後も、雇用の縮小や連鎖倒産が起きる可能性があります。立地企業による雇用が維持されるよう努めることも重要な課題です。

基本的な 考え方

市内に雇用の場を増やすことは、千歳市にとっても重要な課題です。企業はいろいろな観点から立地を決めるので、情報発信を継続し誘致を進めることが重要です。立地場所を探している企業に千歳の良さが広く伝わるよう、多面的に千歳の魅力をアピールしていくことが必要です。

また、千歳の資源や人と密着した（できる）企業が立地し、維持存続していくことが望まれるため、市民も企業誘致に関心を持ち、市民の立場で立地企業を応援していくべきです。

<期待される取組>

- ★千歳市のPRをそれぞれの立場で行い、市全体の取組となるよう促進する。（市職員や議員などは名刺に空港・支笏湖など千歳市のPRにつながる写真を入れる、市民にも千歳市のPRを奨励する、企業誘致に関連する市民からの情報提供を呼びかけるなど。）
- ★千歳が持つ特性や魅力を積極的にアピールする。（空港があることや安い労働力だけでなく自然環境や居住環境にも優れていることをアピールする。また、アピールポイントを市民が提案する。）
- ★農業などの地場産業が育つことや、立地企業が相互に関連し合えるような企業誘致を行う。（千歳の農産物を利用する企業を誘致するなど。）
- ★特色ある企業や業種の誘致を行い、千歳市の知名度を高めていくことも検討する。
- ★進出した企業の製品・商品を、市全体で積極的に購買、購入するよう心がける。

提言12:市民一人ひとりが「千歳」をセールスしよう

<現状と課題>

- 千歳市では地元農産物はもちろん、工場などでいろいろな商品がつくられ、全国に出荷されていますが、「千歳」という名前があまり商品名などに利用されていません。
- 市内で作られている農産物や工場製品について、意外と市民に知られていません。
- 千歳の水道水をペットボトルに詰めた「ちとせのしゃっこい水」や千歳の地ビール「北海道ビール ピリカワッカ」は、市内の小売店や飲食店で販売されていますが、取り扱う店舗が少なく、また、量販店では取り扱っていません。



ちとせのしゃっこい水

基本的な 考え方

千歳市ではいろいろなものがつくられていますが、「千歳」という名前があまり前面に出ておらず、千歳のアピールやイメージアップにつながっていないのは残念です。

千歳の魅力を広めるために、特産品を通じて千歳のアピール&セールスを、市民がそれぞれの立場で、積極的に行っていくべきです。

<期待される取組>

- ★千歳市で生産される農産物や加工製品を千歳産という名前とともに出荷するよう促す。（「千歳」をアピールするシールを貼って出荷するなど。）
- ★メディアや全国的なイベントなどを通じて千歳をアピールする。
- ★地場産品を、市内の店や宿泊施設などがもっと取り扱うよう働きかける。
- ★市のホームページや広報紙などを通じて、千歳市の地場産品やそれを取り扱っている店舗、場所、工場見学に関する情報などを、もっと市民に伝えるようにする。
- ★千歳オリジナルの商品を企業や市民とのコラボレーションで開発する。（水に関連する商品、千歳限定・ご当地バージョンの商品など。）
- ★市役所の市民ホールの展示物については、もっと来訪者の興味を引くような内容、展示方法にする。

提言13:千歳を訪れた人たちが、立ち寄りたくなるまちにしよう

<現状と課題>

- 千歳市には国内屈指の空港があり、多くの乗降客がいますが、千歳の魅力が活かされていない、うまく情報提供されていないなどの理由で、空港利用者の多くが千歳のまちを通過する状況です。
- 支笏湖周辺には、発電所付近の紅葉や千歳鉱山跡、美笛の滝など美しい景観が楽しめる名所がたくさんあります。
- 白鳥を見ることができる場所、支笏湖の魚や噴火の跡を見ることができる水中遊覧船、桜の名所で秋にはサケの産卵を見たり説明が聞けるさけ・ますふ化場、見学できる工場、北海1号機が展示されている名水ふれあい公園など、千歳ならではの立ち寄りポイントがいろいろありますが、あまり知られていません。
- 千歳市には地ビールがありますが、市内では飲んだり買ったりできる場所があまり知られていません。
- 北海道の観光でよく言われる、“自然は一流だけれども、サービスや関係者の意識は劣っている”という面が、千歳でも見られます。



名水ふるさと公園（市ホームページより）

基本的な 考え方

国際線ターミナルも完成し、これからも各地から多くの人々が千歳を訪れることとなります。しかし現状では、立ち寄りポイントのPRやもてなしの体制づくりが十分行われているとはいえない状況です。

多くの人々が千歳に立ち寄り、いろいろな千歳を楽しめるよう、情報提供をより効果的に行うとともに、ホスピタリティ（おもてなしの心）の向上に努めるべきです。

<期待される取組>

- ★空港利用者を市内に誘導することに目的を絞ったPR媒体をつくる。（短い時間でも千歳で楽しめる場を紹介する、外国人観光客も興味を持つような内容にする、千歳の魅力を伝えるポスターを空港に貼るなど。）
- ★千歳市内でのフリータイムをつくりやすいレンタカー利用者やゴルフ場利用者に、もっと立ち寄ってもらえる工夫をする。（車で立ち寄る時に便利な情報を集めて提供する仕組み（携帯端末やカーナビも活用）をつくる、誰でも運転しやすい道路環境や目的地に円滑に到着できる案内標識を整備するなど。）
- ★ご当地メニューコンテストなど、市民も観光客も楽しめる食べ物のイベントを行う。
- ★観光業者だけでなく、市民全員が千歳のセールスマンとしての意識を持ち、空港利用者や市内への来訪者に対して、あいさつや親切な対応に心がける。

提言14:若いまちとして、千歳っ子を産み・育てる環境を高めよう

<現状と課題>

- 全国と同様、千歳市でも産婦人科や小児科が減少・縮小傾向にあり、子育て環境として医療に不安を抱く声が聞こえます。
- 働き続けながら子どもを産み、育てることを希望する人が増えていますが、0歳児から子育てを支援してもらえる場所が少ない状況です。
- 千歳に転勤で来て子育てをしている核家族や父親が単身赴任中の家族、ひとり親家庭が多く、子育て仲間をつくりづらいと言う声や、一時的に子どもを預ける場所がなく困るという声を聞きます。一方、千歳市では市民の協力により、ファミリーサポートセンターや子育てサロンなどを開設し、子育て支援を行っています。
- 冬に子どもが自由に遊べる場や機会を、あまり知らない保護者も少なくありません。
- 子育て支援全体で見ると、千歳市は充実している面が多くあります。“若いまち=子どもを育てやすいまち”という視点から市をもっとアピールすることが必要です。

基本的な 考え方

子どもを産み育てる場に医療環境の存在は重要であり、特に産婦人科や小児科を充実していくべきです。

また、子育て仲間や支援を求めている保護者の中には、ファミリーサポートセンターや子育てサロンなどを知らない、または知っていても利用するまでに至っていない人がいます。支援側としての参加も市民に広く呼びかけるとともに、子育て支援サービスや遊び場などをもっとPRしていくべきです。

<期待される取組>

- ★市内での出産を望む人がもっと出産できるよう、市民病院の産科を維持・拡充する。
- ★市内の産婦人科・小児科の拡充を促進する。
- ★祝休日の産婦人科や小児科当番医制度を確立する。(市内及び市外医療機関との連携を進めるなど。)
- ★現在ある保育サービスの中で、0歳児から受け入れられる体制を拡充する。
- ★ファミリーサポートセンターや子育てサロンなど、現在行われている子育て支援について積極的にPRするとともに、運営に協力してもらえる市民を増やす。
- ★冬場に子どもが自由に遊べる場や機会については情報を求めている保護者も多いため、積極的に情報提供を行う。
- ★子育てに最適な自然環境、道外との行き来が便利な立地、充実した保育サービスなど、子育てのしやすさを積極的に市外にアピールし、若い世代の移住・転入を促進する。

提言15: 支え合い、見守り合いが自然に見られる地域にしよう

<現状と課題>

- いろいろな活動に積極的に参加する高齢者がいる一方、地域や社会に出てこない高齢者も少なくありません。一人暮らしの高齢者を見守る取組も行っていますが、個人情報保護の観点から実態把握が限られています。
- 町内会の活動や地域のつながりが活発で、幅広い年齢の人が地域活動に参加している地域もありますが、町内会に加入しない世帯や近所づきあいが希薄な地域もあります。
- 子どもや高齢者の交流については実施されていますが、中学生、高校生といった青少年が地域で活動する場面はあまりありません。
- 子どもや高齢者に限らず、心の悩みを抱え込む人は増えています。千歳市では電話カウンセリング室が開設されていますが、市民全体に十分知られていない状況です。

基本的な 考え方

孤独死や高齢者が巻き込まれる事件が増えているなか、地域や社会に出づらい（出てこない）高齢者を見守る体制は、今後千歳市にとっても重要な課題です。引きこもりがちな高齢者が出かけやすい場や暮らしを見守る環境が必要です。そのためには、地域での見守りができるきっかけを仕掛けていくべきです。

また、引きこもりに結びつく要因ともなる心の悩みを抱えている人が改善に向かえるよう、支援していくべきです。

<期待される取組>

- ★高齢者の外出や社会での交流を促す高齢者サロンを拡充する。
- ★高齢者が外出する際の交通手段をサポートするしくみをつくる。（外出しやすい福祉用具の普及を促進する、外出を（無料で）サポートする組織づくりを行うなど。）
- ★高齢者世帯の見守り活動を広める。（個人情報保護を遵守したうえでの情報の収集・活用を行う、民生委員の協力を得て地域の人に参加を呼びかけるなど。）
- ★幅広い年齢層の市民が交流できる機会を増やす。（高齢者も参加しやすい内容・会場にする、中高生も企画・運営に参加できるイベントを増やす、多様な年代が集まって町内会新聞を作成するなど。）
- ★地域の中で声をかけ合える機会を増やす。（千歳っ子見守り隊の活動を拡大して地域住民全員を対象に声かけを行う、ごみ出しや広報配布時等に声かけを行うなど。）
- ★コミュニティセンターの利便性を高める。（バリアフリーを推進する、利用条件を緩和するなど。）
- ★心の悩みを他者に打ち明けられる場を広報し、利用の促進を図る。（自立支援医療の申請時に伝える、同じ悩みを抱える仲間同士の交流を促進するなど。）

提言16:社会全体で、子どもの好奇心や郷土愛を育てよう

<現状と課題>

- ゆとり教育の見直しで学力向上の授業が増える一方、子ども達の心を育てる総合的な学習の時間が削減される方向にあります。
- 一部の小中学校では、地域の人達の協力により、自然観察や工作教室、本の読み聞かせなどを行っています。現在、これらの取組状況は学校によって差がありますが、社会全体で子どもを育てていく観点から、できる限り全市で取り組まれるようにしていくことが望まれます。
- 学校によって図書室の本の量に差があります。また、子ども達に読書を勧めるうえで専門的な知識を持った職員は不足しています。

基本的な 考え方

千歳を愛する子どもを育てていくためには、学校教育においても、子ども達が千歳の自然や歴史、文化などに触れる機会を多くすることが大切です。

ゆとり教育の見直しで学力向上の授業が増える中、限られた時間の中で、子ども達の豊かな心を育てていく体制や環境をより一層、整えていく必要があります。

<期待される取組>

- ★教育を学校だけに期待するのではなく、社会全体で子どもを育てていく取組を広める。(北栄小学校で実施された放課後子どもプランを検証し他の学校への拡大を検討する、学校サポーターとして地域住民に参加を呼びかける、PTAに地域住民が加わる「PTCA」を広げる、取組を企画・運営するコーディネーターをつくるなど。)
- ★自然、歴史、文化、食育などのテーマで、学校の外で千歳を学ぶ機会を増やす。(地域の人も参加できる課外教育を充実するなど。)
- ★高齢者サロンを拡大して「地域サロン」とし、子どもも立ち寄れるようにする。
- ★子ども達に読書の楽しさを広める体制を整える。(図書環境を充実する、学校図書館司書^{*1}を配置するなど。)

※1: 小学校・中学校・高等学校などの図書館で専門的資料に関連する職務に従事する教員。教職員が受験する場合がありますが、大学に2年以上在学し、所定の科目62単位以上を修了していれば受験資格を持てます。

提言17:生涯学習への参加の輪を広げよう

<現状と課題>

- 千歳には、市民が学びたいという気があれば学べる場がいろいろあります。それらの場を利用して、積極的に生涯学習に参加している人がいる一方、参加まで至らない人、関心が低い人など、参加意識は人によってさまざまです。その結果、参加者が増えず、固定化する傾向にあります。
- ミナクールで地域活動に関する情報提供を行っているほか、市民活動合同説明会で参加も呼びかけていますが、市外から転勤して来た人も多く、参加するまでの行動になかなか踏み出せない人も少なくありません。
- 市内には、市民活動団体が1,600ほどありますが、横のつながりが薄く、お互い知らない団体が多い状態です。ふるさとポケットなどを通じて市民団体の交流が行われていますが、参加団体がなかなか増えません。
- 千歳市では年間たくさんの行事が行われていますが、行事が重複することもあります。
- 市のホームページに掲載されている生涯学習の情報の中には、古い情報がそのまま残っていたり、情報を調べづらい場合があります。

基本的な 考え方

スポーツ活動も含め生涯学習は、生きがいつくりや市民の主体的な活動を促す重要な役割を担っています。現在活動している団体の連携を深めるとともに、まだ参加していない人達が参加するきっかけを増やしていくべきです。

また、市内で開催されている講座やイベントについては、それぞれの機会に多くの人に参加できるように、内部調整や迅速な情報提供に努めるべきです。

<期待される取組>

- ★ふるさとポケットなどを通じて市民活動団体の交流が深まるよう促進する。(屋内・屋外双方の団体が参加できる環境で実施するなど。)
- ★市民活動合同説明会に、より多くの市民が参加しやすいように改善を図る。(市民の目に止まりやすい場所で行う、初めての人でも参加しやすい企画内容にするなど。)
- ★現在行っている活動・イベント等をPRする機会を増やす。(千歳駅周辺など人が多く集まる場所で紹介する、ホームページで動画を使って紹介する、スポーツの大会やイベントなどについても情報提供するなど。)
- ★ミナクールの利便性を高めるために、市民ギャラリーとの一体的な利用方法を検討する。(必要に応じてミナクールと同様の機能を持つ場を増やすことも検討する。)
- ★市が主催で行う企画については、相互の調整を早めに行う。また、市主催の企画スケジュールを早めに広報し、市民側が調整しやすいようにする。
- ★生涯学習に関連する情報をよりわかりやすく市民に提供する。(ホームページの情報を適切に更新するなど。)

提言18:今ある施設が活動や発表の場にもっと使われるようにしよう

<現状と課題>

- 芸術文化作品の発表の場として市民ギャラリーがありますが、減免後も料金が高くて頻繁に利用できない状況にあります。その結果、市民が文化芸術作品を目にする機会も減っています。
- コミュニティセンターについては、少人数で活動している団体にとっては、減免対象となる利用条件（10人以上の団体での申込み）が厳しい状況です。また、高齢者や子育て世代にとって利用しにくい面もあります。

基本的な 考え方

市民ギャラリーは市民の芸術文化活動を発表する場として多くの市民に親しまれることが望ましく、利用状況が低調なのはもったいないことです。コストとのバランスもありますが、市民や団体がより利用しやすいよう、料金設定について今一度、検討すべきです。

コミュニティセンターについても、誰もが使いやすい施設にするとともに、小規模な市民団体でも活動の場として利用しやすいようにすべきです。

<期待される取組>

- ★市民ギャラリーの料金設定を抑える工夫をする。（展示ホールを区切り小さなエリアを安く利用できるようにする、市外の活動団体も利用しやすい料金体系にするなど。）
- ★コミュニティセンターなど多くの人が利用している施設については、ソフト・ハードの両面から誰もが使いやすいように改善していくとともに、活動に必要な備品を整備する。
- ★コミュニティセンターを減免で利用できる条件については、文化施設と同様の条件まで下げる。（10名以上から5名以上に変更するなど。）
- ★公共施設が市民活動の発表の場として、より利用しやすいように改善する。

3 資料編

(1) 諮問書

千企主第17号
平成21年7月23日

千歳市都市経営会議
座長 浜中 宏一 様

千歳市長 山口 幸太郎



本市のまちづくりにおける政策等の方向性及び方針について（諮問）

平成23年度を始期とする新しい総合計画「(仮称)千歳市第6期総合計画」の策定にあたり、次の点について貴会議の意見を伺います。

記

諮問テーマ：

『(仮称)千歳市第6期総合計画』 これからのまちづくりの課題と目標

諮問の趣旨：

千歳市は、現在、「ひと・まち☆きらり 地球の笑顔が見えるまち 千歳」を将来都市像とする「千歳市新長期総合計画」に基づき、各種施策・事業を推進しておりますが、この計画期間が平成22年度までとなっていることから、平成23年度を始期とする新しい総合計画「(仮称)千歳市第6期総合計画」の策定に取り組んでいるところであります。

総合計画は、まちづくりの全般にわたり、長期的な展望に立った総合的・計画的な指針となるものであり、行政運営のみならず、市民や団体などの民間活動においても重要視されるものであります。

このため、この新しい総合計画「(仮称)千歳市第6期総合計画」の策定にあたり、市民の視点から、今後の千歳のまちづくりの課題や目標などについてご検討いただくため、『(仮称)千歳市第6期総合計画』 これからのまちづくりの課題と目標を諮問いたします。

平成22年2月末を目途にご提言願います。

(2) 平成21年度都市経営会議委員名簿

(敬称略、五十音別)

氏名	ふりがな	役職
芦澤 尚	あしざわ たかし	
伊藤 博	いとう ひろし	
今井 美樹	いまい みき	
坂井 治	さかい おさむ	
数藤 和子	すどう かずこ	
田代 京子	たしろ きょうこ	
立田 京平	たつた きょうへい	
舘林 秀樹	たてばやし ひでき	
辻 裕子	つじ ゆうこ	副座長
蜂屋 邦子	はちや くにこ	
浜中 宏一	はまなか こういち	座長
廣島 潤子	ひろしま じゅんこ	
松本 弘司	まつもと ひろし	
南村 浩	みなみむら ひろし	
吉谷川 貢	よしやがわ みつぎ	
脇田 輝美	わきた てるみ	

(2) 開催経過

開催月日	回	内容
平成 21 年 6 月 19 日	オリエン テーション	座長、副座長の選任
7 月 23 日	第 1 回	市長から諮問書の手交 諮問テーマ：『(仮称) 千歳市第 6 期総合計画』これからのまちづくりの課題と目標 会議の基本的な進め方と課題等について意見を交換
8 月 12 日	第 2 回	第 1 回で各委員から提出された意見内容を確認 分野テーマ「経済」について討議
9 月 15 日	第 3 回	分野テーマ「生活環境」について討議
9 月 30 日	第 4 回	分野テーマ「少子高齢化への対応」について討議
11 月 9 日	第 5 回	分野テーマ「教育」について討議
12 月 14 日	第 6 回	分野テーマ「魅力づくり」について討議
平成 22 年 1 月 18 日	第 7 回	提言書案のまとめに向けた討議①
1 月 25 日	第 8 回	提言書案のまとめに向けた討議②
1 月 28 日	第 9 回	提言書案のまとめに向けた討議③
2 月 9 日	第 10 回	提言書案の最終確認